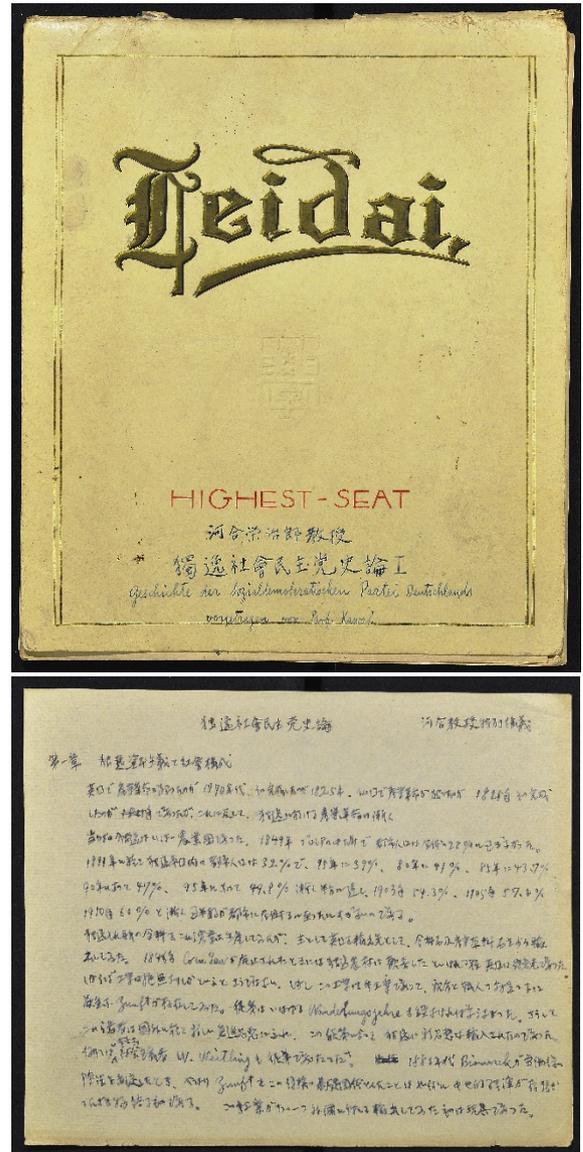


(3) 2年次

大学生時代を通じて足繁く通ったのは経済学部の河合栄治郎の講義だった。単位を取得できない河合の特別講義に、1年次と2年次に続けて出席している。1年次のテーマは「自由主義」、2年次のテーマは「ドイツ社会民主党史論」だった。なかでも2年次の講義では詳細な受講ノートを作成している（画像：丸山眞男『河合栄治郎教授特別講義 独逸社会民主党史論』受講ノート〈丸山文庫資料番号122〉）。河合はこの講義で修正主義論争を詳細に解説し、ベルンシュタインは自身の所信に忠実であったがゆえに社会民主党内で孤立を余儀なくされたと結論づけた。丸山はそこに、自由主義の立場は一貫していな



がら、「思想善導」政策に携わって「御用教授」と揶揄されるほどマルクス主義を批判していた時代から、ファシズム批判へと軸足を移しつつあった河合の苦悩を感じ取っている。

河合の講義からは、『ラッサール全集』を図書館で借りて読破するほどの影響を受けた。

この年受講した授業はほかに、神川彦松「外交史」、田中耕太郎「商法」、有沢広巳「統計学」などがある。